

2013  
見付学区防災アンケート調査  
報告書

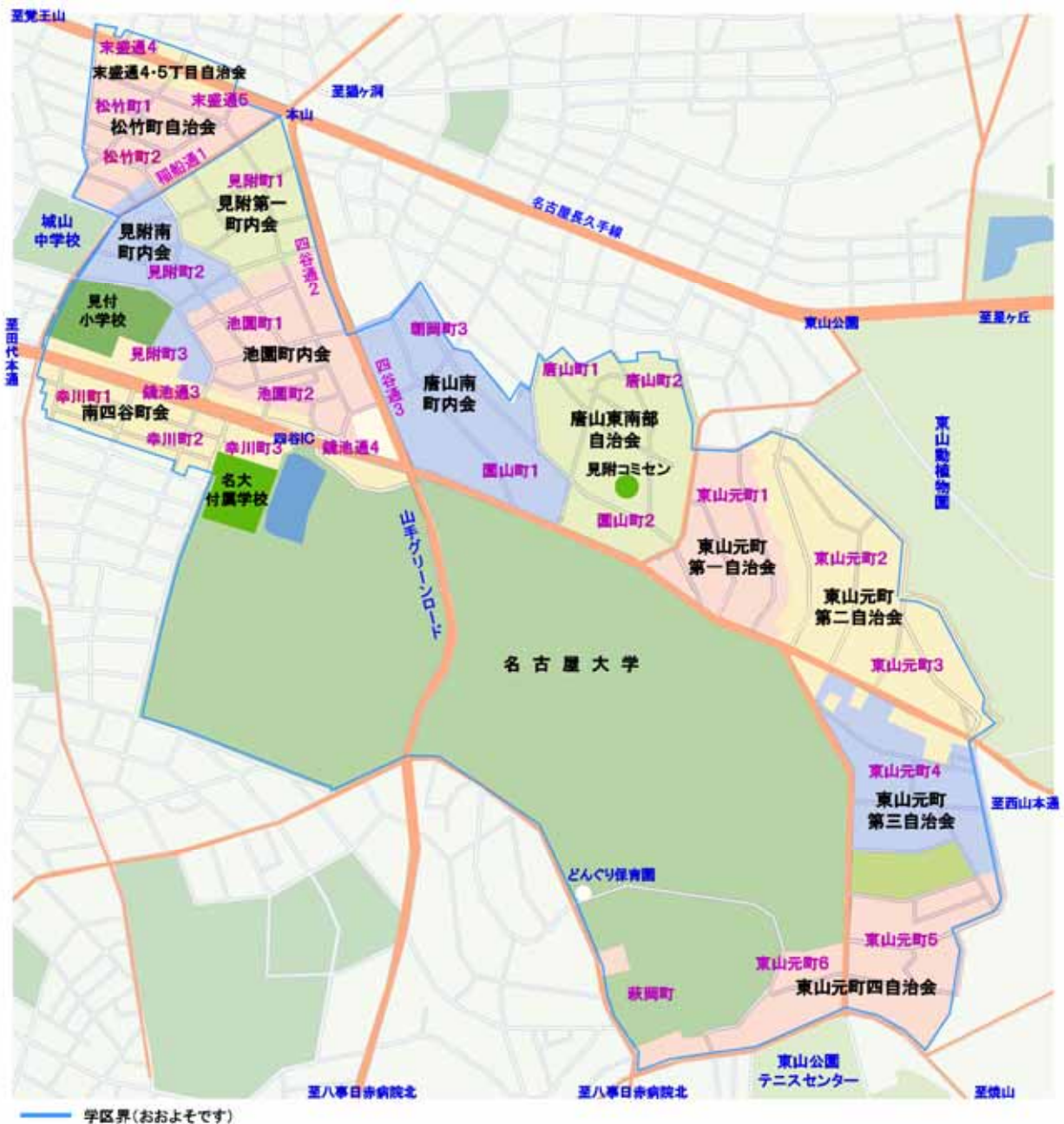
2013年10月31日

見付学区連絡協議会  
見付学区の防災を考える会

[ 目次 ]

はじめに	2	3. 災害への備えの現状	
1. 学区の世帯の状況について		3-1 住宅倒壊の不安と耐震補強	9
1-1 住宅種別（一戸建て/マンション）	3	3-2 家具の転倒防止	9
1-2 世帯の状況（高齢者）	3	3-3 家具転倒防止の代行を利用するか	10
1-3 世帯の状況（その他の災害弱者）	4	3-4 防災について家族で話し合うか	10
1-4 世帯の状況（ペットのいる世帯）	4	3-5 家庭での災害備蓄の現状	11
2. 防災についての意識		3-6 学区の防災訓練について	11
2-1 被災に備えた世帯情報の防災登録	5	3-7 地域自主防災への態度	12
2-2 災害に対する不安	6	3-8 まとめと課題	12
2-3 避難所の利用意向	7	主な自由意見・要望（抜粋・要約）	13
2-4 避難所の認知状況	8	調査票	15

[ 名古屋市千種区見付学区 ]



# はじめに

## ■ 調査の目的

この調査は、見付学区の防災体制づくりの参考とするために、学区住民の防災意識と現状を把握することを目的としています。この調査結果に基づいて学区の自主防災の課題を明らかにしていきたいと考えています。

### 【 この調査で知りたいこと 】

1. 世帯の状況
  2. 防災についての意識
  3. 災害への備えの現状
- 学区防災の課題

## ■ 調査概要

実施時期： 2013年4月～5月

調査対象： 見付学区在住の自治会所属世帯

調査法： アンケート調査（調査票留置法）

調査方法： 区政協力委員（自治会/町内会長）が各町内の回覧組織を通じて調査票を配布。組長を介して回収した。

配布数： 3,500

回収数： 1,241

回収率： 35.5%

## ■ 回答世帯の内訳

下表は「問2」で居住地を尋ねた結果です。

なお、地区による違いを見るため、学区内の位置と地域特性の違いを考慮し、学区を4つのブロックに分けてクロス集計しました。その結果、地区別に顕著な違いが見られた項目については後述します。

注：概ね自治会／町内会を基準としてブロック分けしていますが、四谷通についてはすべて第3ブロックに含めました。

問2 お住まいの地域	回答数	ブロック分け	回答数	主な自治会／町内会
1. 末盛通	28	第1	274	末盛通4・5丁目自治会 松竹町自治会 見附第一町内会
2. 松竹町・稲舟通	176			
3. 見附町1	70			
4. 見附町2・3	137	第2	314	見附第二町内会 南四谷町会 池園町内会
5. 幸川町	81			
6. 鏡池通	10			
7. 池園町	86			
8. 四谷通	26	第3	344	唐山南町内会 唐山東南部自治会 東山元町第一自治会
9. 朝岡町・園山町1	71			
10. 園山町2・唐山町	183			
11. 東山元町1	64			
12. 東山元町2・3	94	第4	300	東山元町第二自治会 東山元町第三自治会 東山元町第四自治会
13. 東山元町4	100			
14. 東山元町5・6	91			
15. 萩岡町	15			
無回答	9			
合計	1,241			

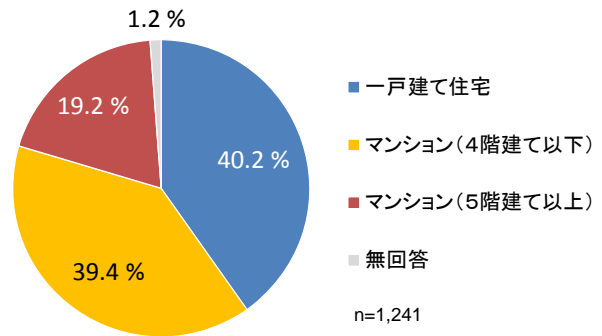
# 1. 学区の世帯の状況について

## 1-1 住宅種別（一戸建て/マンション）

大地震に被災した場合、一戸建て住宅とマンションとでは被害や復旧状況が異なると予測されるため、防災対策もそれぞれの特性を考慮しなければなりません。

図1のように、一戸建て住宅世帯の40.2%に対して、マンション居住世帯が58.6%でした。（ただしこれは回答者についてのみの比率で、地域の実情はこの通りではないため、正しくは行政保有のデータに基づく必要があります）

図1 お住まいの住宅の種類（問3）



## 1-2 世帯の状況（高齢者）

回答者世帯の同居者数は図2の通りです。

このうち災害弱者といわれる高齢者、障害のある方、乳幼児などがどの世帯に居住しているかは、地域の防災上たいへん重要な情報です。

まず、同居している75才以上の高齢者の数を尋ねたところ図3のようになりました。

この中で特に把握しておかなければならないのは、一人住まい高齢者、および高齢者のみの世帯です。

そこで、居住者数と高齢者数が一致する世帯を「高齢者のみ世帯」とし、高齢者がいるそれ以外の世帯を「高齢者同居世帯」として集計したものが図4です。

高齢者のみ世帯には、ひとり暮らしの高齢者世帯と、主に夫婦とも高齢者の世帯などが含まれます。これらの世帯については、民生委員がある程度の情報を把握していますが、守秘義務があるため、防災や救援活動など他の用途に利用することができません。

図2 同居者の人数（問4）

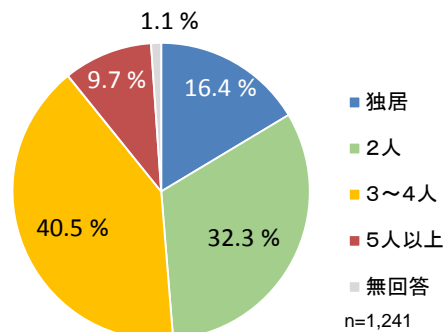


図3 同居者中に、75才以上の方はいるか（問5）

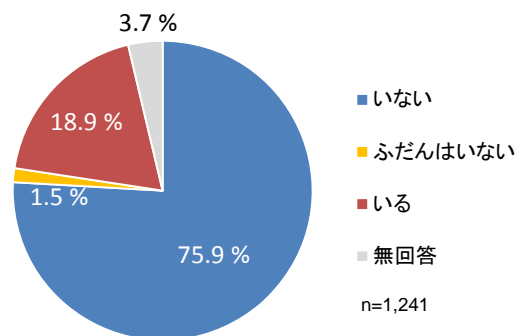
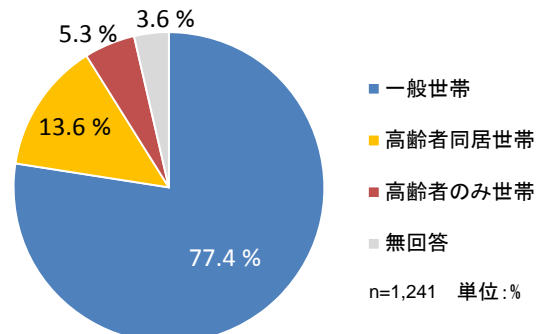


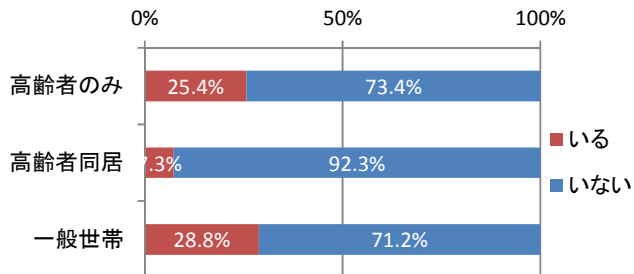
図4 高齢者世帯の状況（問2/問3のクロス集計で作成）



### 1-3 世帯の状況（その他の災害弱者）

他にも災害時に支援が必要な世帯があります。たとえば一人で出歩けない人がいる世帯は10.7%でした。（図5）中でも高齢者のいる世帯では1/4以上の世帯に出歩けない人がいることが分かりました。（図6）

図6 自分ひとりで出歩くことが困難な人（高齢者世帯）



また、乳幼児や小学生のいる家庭も、災害時にはいろいろな困難に直面すると思われます。（図7）

### 1-4 世帯の状況（ペットのいる世帯）

ペットが家族同様の存在である家庭は多く、いっしょに避難できるかどうか不安を抱えています。

この調査では、ペットのいる家庭が16.2%(201世帯)ありました。（図8）

現在、避難所の見付小学校にはペット用のスペースが設定されていますが、食糧や糞便の始末をどうするかなど、避難所運営の課題となりそうです。

なお地区別集計によると、東山元町では他地区よりも多い約4世帯に1世帯の割合でペットが飼われているようです。

(注) この調査では、ペットが飼えないマンションや独身者のアンケート回収率が低いと考えられるため、上記はあくまでも回答者の中での参考比率です。

図5 自分ひとりで出歩くことが困難な人はいるか（問6）

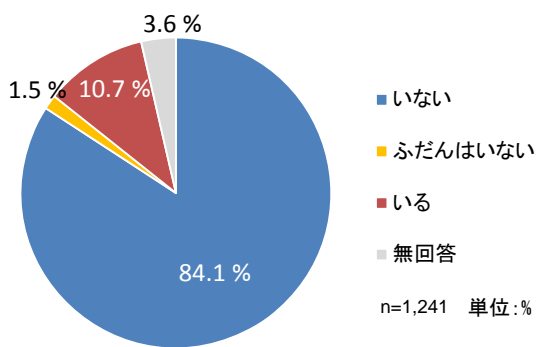


図7 中学校入学前の子どもはいるか（問7）

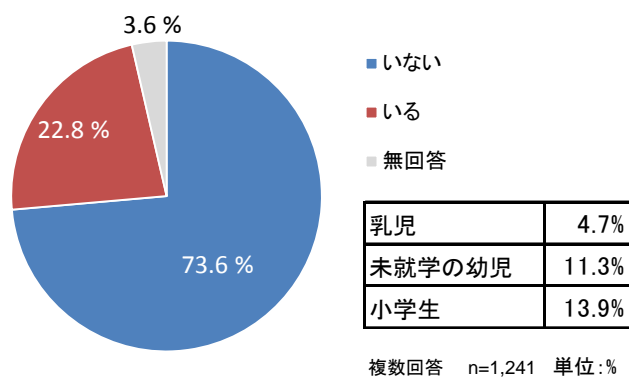


図8 世話が必要なペット(犬・猫ほか)はいるか（問8）

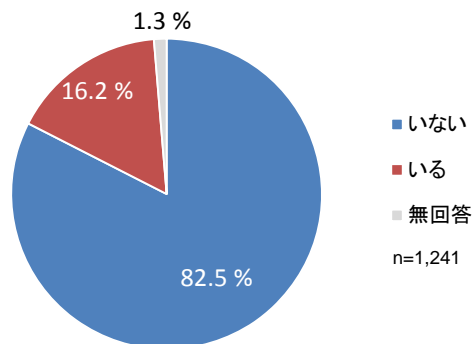
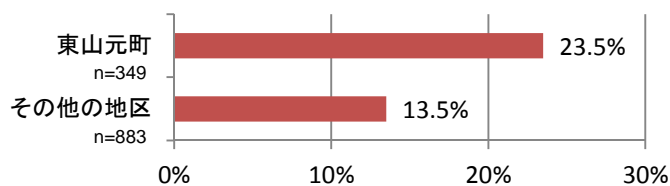


図9 ペットのいる世帯（地区別集計）



## 2. 防災についての意識

### 2-1 被災に備えた世帯情報の防災登録

大災害が起こったとき、救命活動や震災後の生活支援のために国や市、自衛隊などの救援隊が短時間でかけつけてくれることは期待できません。したがって、学区の救援活動は自主防災組織や町内住民の手で行うしかありません。

しかし現在、いわゆる個人情報保護の壁があるため、救護や支援を必要とする人が、どこにどれくらい住まわれているのか等の情報は、きわめて限られています。

この問題を解決するには、地域住民と学区連絡協議会が正統と認めた自主防災組織をきちんと作り、そこに防災上必要な世帯情報を登録していただくのがひとつの方法だと考えられています。

そのような情報登録の仕組みが整えられた場合、住民の方々が自主的に参加していただけるのかどうかをアンケートの冒頭でお尋ねしました。

その結果、73.7%から「登録しても良い」との回答が得られました。(図10)

一方で、個人情報が漏洩したり、悪用されたりしないようにし、プライバシーを守るために、条件付きでの登録を求める人も14.1%ありました。

「条件」としては、個人情報がしっかり保護されること、情報を自ら抹消する権利、情報の用途を限定することなどと答えた人が多く、登録項目をできるだけ最小限としたり、登録する項目を自分で選べるようにするなどの回答もありました。(図11)

「登録をしない」と答えた人は5.2%に留まりましたが、その理由として、必要性や効果に対する疑問、個人情報保護への不安がある、などとされています。(図12)

なお地区や住居種別による差は、ほとんどありませんでした。

図10 あなたは世帯情報を登録するか (問1)

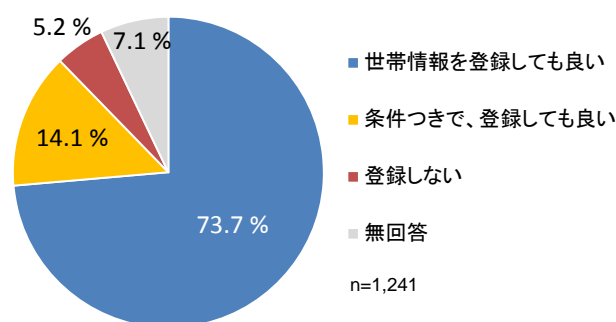


図11 登録のための条件 (問1)

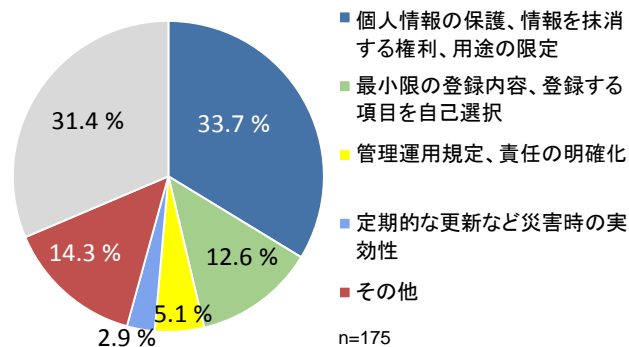
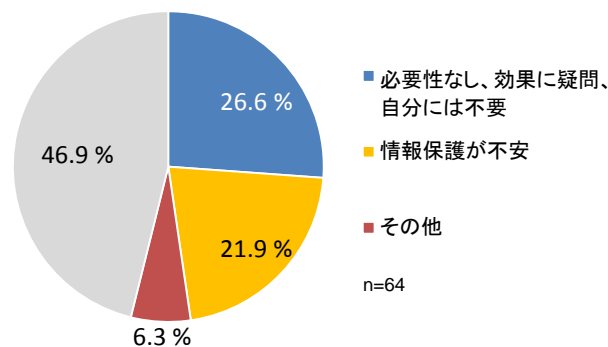


図12 登録しない理由 (問1)



## 2-2 災害に対する不安

災害に対しては誰も不安を持っていますが、その程度や内容は住んでいる地域環境や建物の状態などによって異なることが予想されます。

まず「不安」そのものの有無については、「少し不安を感じる」と「かなり不安を感じる」を合わせて約8割の人が不安を持っています。(図13)

地区別に大きな違いはありませんでしたが、住宅種別では、マンションに比べて一戸建て住宅の方が「かなり不安を感じる」人の割合が高くなっています。(図14)

図13 大きな災害に対して不安を感じることもあるか(問9)

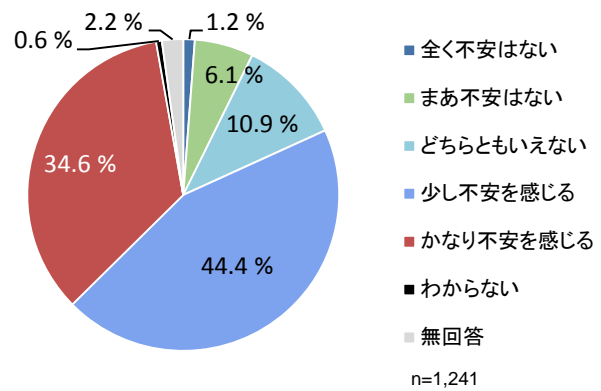
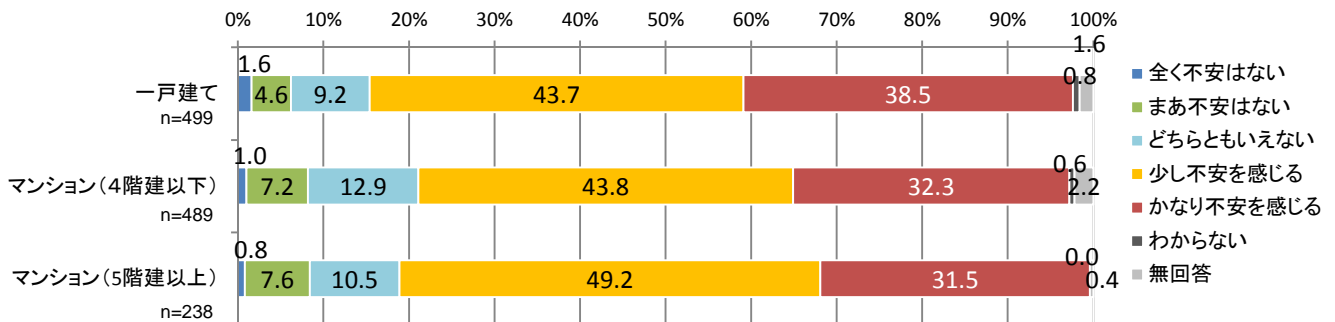


図14 災害に対する不安(問9 住宅種別)



不安の内容については、ライフラインが止まったり、家屋倒壊など図14の通りですが、「学校や外出先の家族が心配」が37.9%もあり、災害が学区だけの問題ではないことを示しています。(図15)

地域別(図16)では、「崖くずれ」の不安が学区東部で多く、西北部では「地盤の液状化」や「浸水被害」への不安が多くなっています。

「家屋倒壊の不安」を住宅種別(図17)で見ると、一戸建て住宅が高いことは予想通りですが、マンション居住で不安を持つ人の半数が倒壊の不安をあげていることが目につきます。

図15 どんな不安があるか(問9 複数回答 n=978 単位:%)

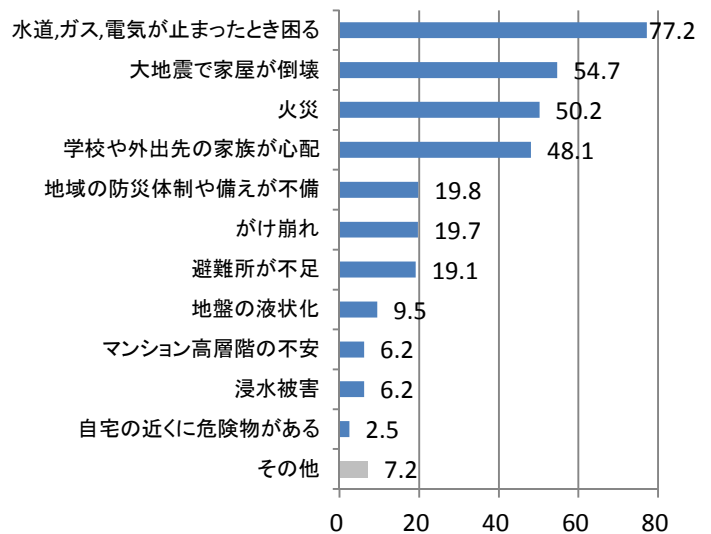


図16 不安の内容(地区ブロック別)

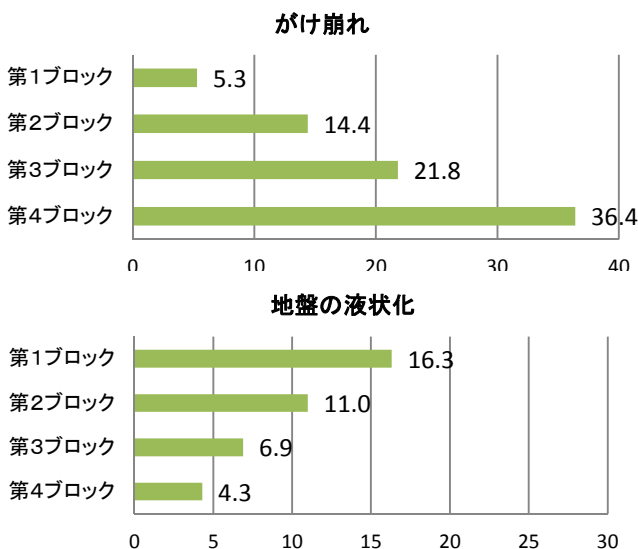
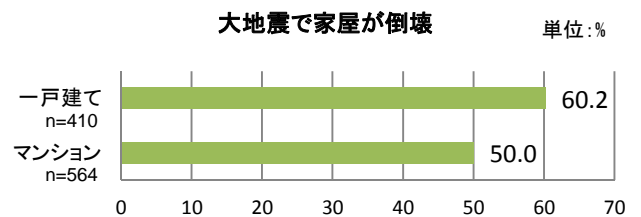


図17 不安の内容(住宅種別)



第1ブロック: 末盛・松竹・見附第一 n=208  
 第2ブロック: 見附南・池園・南四谷 n=264  
 第3ブロック: 唐山南・東南部・東山元町第一 n=275  
 第4ブロック: 東山元町第二・第三・第四 n=231

## 2-3 避難所の利用意向

地震の被害で自宅に住めなくなったとき、避難所に避難するかどうかを尋ねました。(図18)

約7割の人が「とりあえずは学区の避難所に入る」と答えていますが、約1/4ちかくの人が「離れた地域の親戚や知人の家に避難」という意向でした。

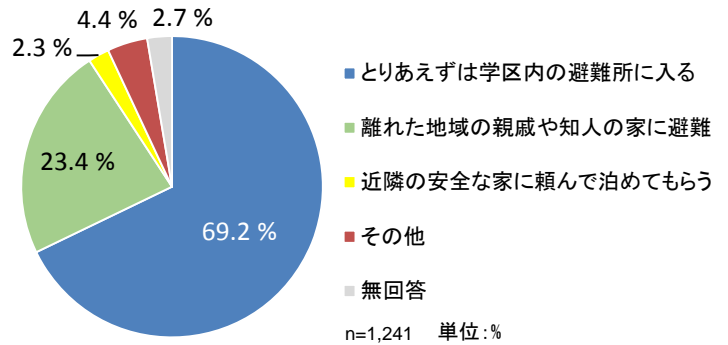
また「その他」では、実家や持ち家など他地域に住むという回答もありましたが、被災直後には交通も混乱し、被害のない遠方に移動することが難しい可能性もあります。そのような場合にどうするかを考えておく必要があります。

なお、近隣の家に頼むという人はわずかで、他人に迷惑がかかることは避けたいからだと推察されます。

地区別では、避難所の見付小学校や名大教育学部付属学校に近い学区西部と、東山元町などの東部とでは違いがみられました。この傾向は「高齢者のみ世帯」の場合に、さらにはっきり出ています。(図19)

家族構成別にみると(図20)、乳幼児がいる世帯は避難所に入る率が他より低く、逆に親戚や知人を頼る割合

図18 住宅が損壊したり、マンションのエレベーターが止まって住めなくなったときには、どのようにするか(問14)



が高くなっています。これは、感染症の危険やストレスにさらされる避難所で乳幼児を生活させることへの抵抗感からだと思われます。

逆に、高齢者と同居している世帯は避難所に入る割合が最も高く、親戚や知人を頼る割合が最も低くなっています。

図19 地区別集計(問14)

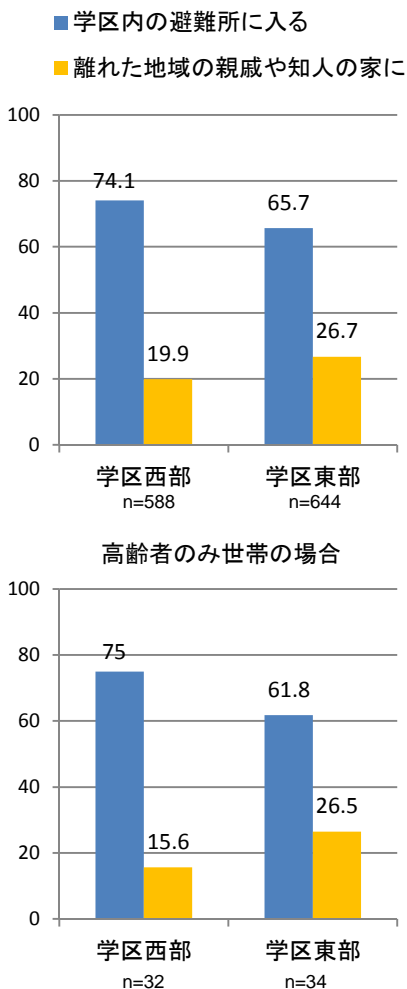
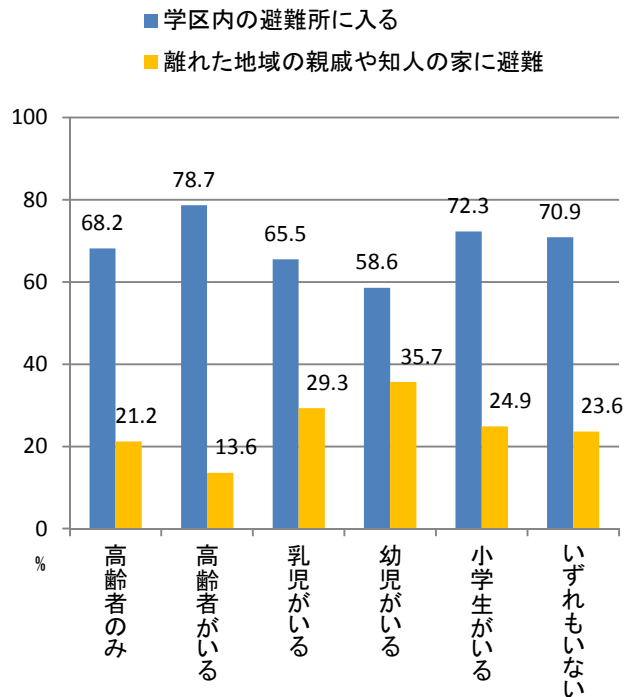


図20 家族構成別集計(問14)





## 2-4 避難所の認知状況

いま見付学区には、見付小学校、名古屋大学教育学部附属学校、見付コミュニティセンターの3か所が避難所に指定されています。これらの施設が避難所であることを学区住民がどの程度知っているのか、また、自力で行くことができるのかを調べました。(図21)

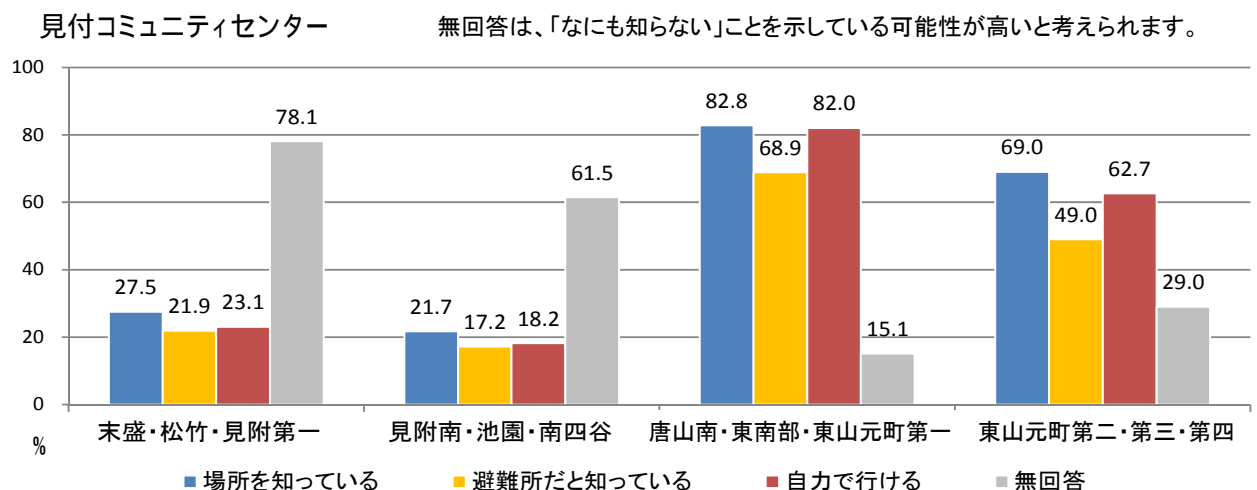
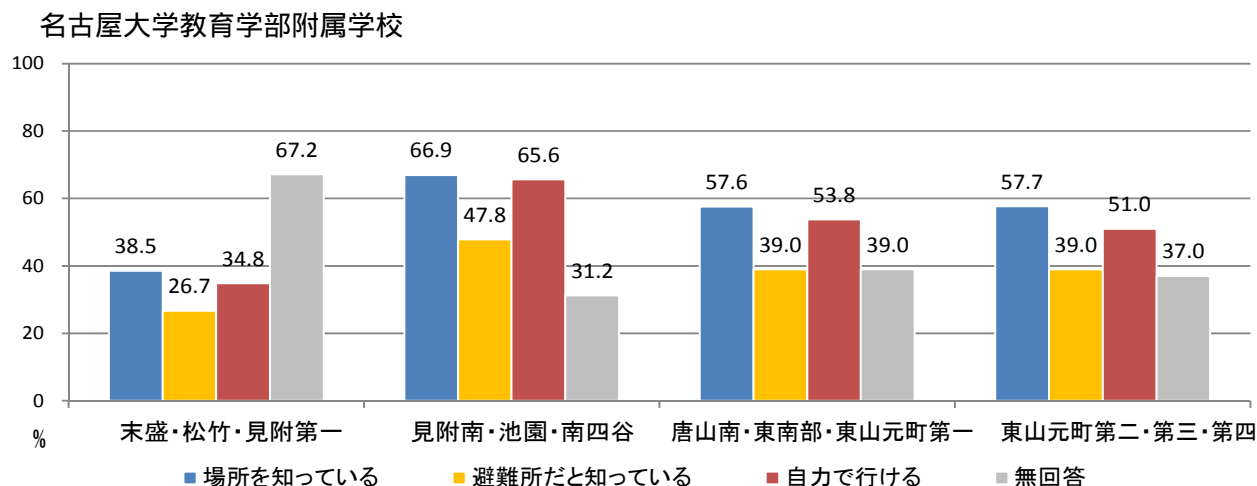
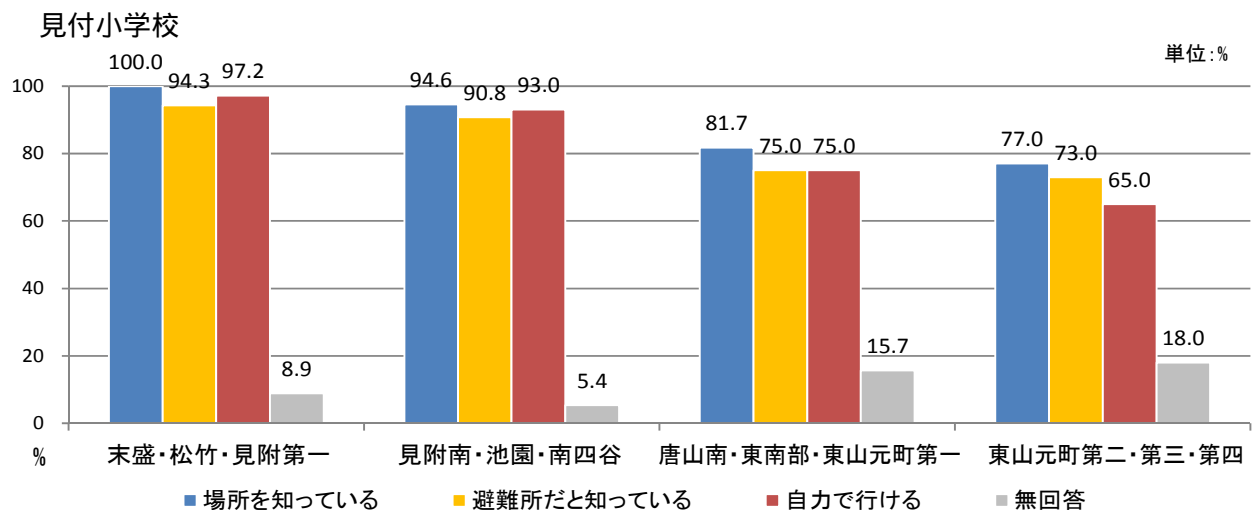
まず見付小学校は避難所として広く認知されていますが、学校から遠い地区にいくほど認知度が下がります。

学区の東南部からは「自力で行ける」人が65%に減り、高齢者が避難するには遠すぎるといえそうです。

名大付属学校は唐山町・園山町などから近いにもかかわらず、所在地も避難所であることも認知度が低くなっており、もっと周知する必要があります。

見付コミセンは、学区西部地区にはなじみがないものの、東山元町など東部には比較的知られています。ただし施設が狭小で、多人数を収容できないのが問題です。

図21 避難所3施設について（問17）



### 3. 災害への備えの現状

#### 3-1 住宅倒壊の不安と耐震補強

問10では、阪神・淡路や東日本大震災のような大地震に対して「住まいが倒壊しないと思うか」を尋ねました。

「大丈夫だと思う」と「たぶん大丈夫だと思う」を合わせて46.6%の人が大丈夫だと答えています。

一方、「少し危ない」と「かなり危ない」を合わせて35.2%の人が倒壊の危険を感じています。(図22)

地域、家族構成による大きな違いは見られませんでした。住宅種別では「一戸建て住宅」の方が「かなり危ない」が多くなっています。(図23)

図22 阪神・淡路や東日本大震災のような大地震に対しても住まいは倒壊しないと思うか (問10)

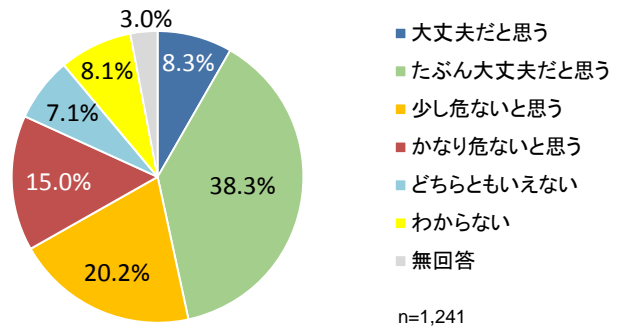
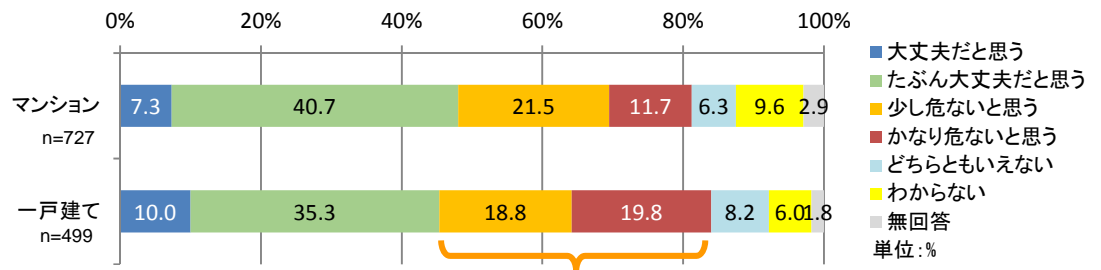


図23 住宅種別で集計 (問10)



次に一戸建て住宅のうち、「少し危ない」「かなり危ない」と答えた人(193世帯)に対して、耐震補強を実施しているかどうかを尋ねました。(問11 表1)

住宅倒壊の不安がありながら、耐震補強をしていない世帯が約7割もあり、実際に大地震に襲われたときに大きな被害が出るおそれがあります。

また耐震補強をしている世帯でも、倒壊の不安を抱えていることが分かりました。

表1 一戸建て住宅で倒壊の危険を感じている世帯では、住宅の耐震補強を実施しているか (問11)

回答	数	%
1. 耐震補強している	43	22.3
それでも危ないと思う理由	想定以上の地震	14 7.3
	耐震補強の効果への不安	9 4.7
	家が木造あるいは古い	7 3.6
	その他	10 5.2
2. していない	134	69.4
耐震補強をしていない理由	費用がかかる	63 32.6
	先延ばし	47 24.4
	頼み方が分からない	8 4.1
	その他(賃貸住宅なので等)	18 9.3
無回答	16	8.3
合計	193	44.2

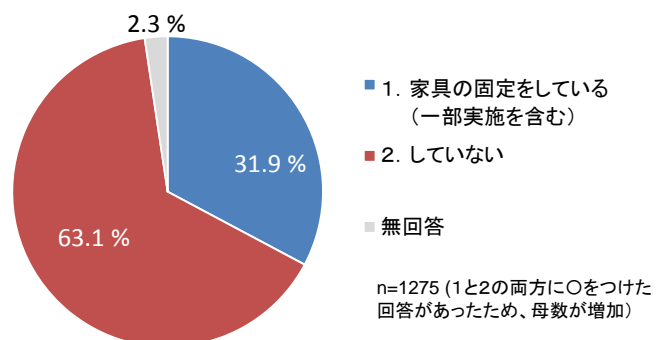
n=193

#### 3-2 家具の転倒防止

強い揺れで倒れて下敷きになったり、逃げ道をふさぐおそれのある大型の家具やピアノ、冷蔵庫などを、倒れないように固定することで被害を防ぐことができます。

家具固定を実施している世帯は約3割に留まりました。(図24) 実施していない理由を見ると、「危険とは思えない」「めんどりで先延ばし」「自分ではできない」などのほか、「対策を要する家具がない」「壁の損傷を避けたい」「賃貸なのでできない」などの回答がありました。(図24)

図24 家具の固定を実施しているか (問10)



### 3-3 家具転倒防止の代行を利用するか

「地震に備えた家具転倒防止の器具取付けが自分ではできない人のために、材料代負担のみで代行(ボランティア)をしてもらえる制度がもしあれば、利用しますか」と尋ねたところ、「ぜひ利用したい」と「まあ利用してもよい」と答えた人が約6割ちかくありました。(図25)

このようなボランティアサービスは、家具固定が自分ではできない高齢者の世帯に利用していただくことを想定していますが、高齢者のみ世帯では「ぜひ利用したい」が多いものの、「まあ利用してもよい」は他より少ない結果となりました。(図26)

図25 家具転倒防止器具の取付け代行を利用するか (問13)

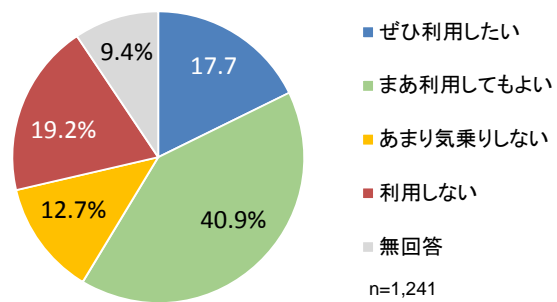
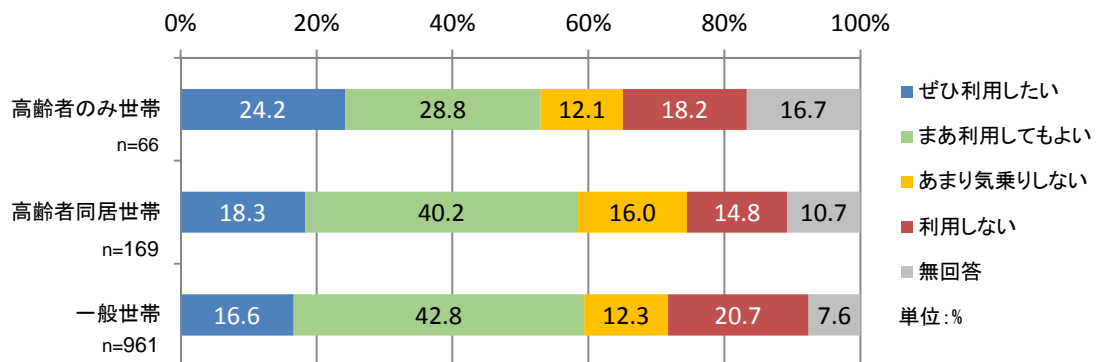


図26 家族構成別集計 (問13)



### 3-4 防災について家族で話し合うか

学校や勤務先などで災害に遭ったときにどのようにするかの約束事を決めておくなど、災害時の対応方法や防災について家族と日ごろから話し合うことは大切です。

約65%の世帯で、このような家庭内での話し合いを行っています。しかし3割ちかくの世帯が「特に話題にならない」と答えており、家族ぐるみでの防災対策が求められるところ です。(図27)

問1の「世帯情報を登録するかどうか」の回答別で見ると(図28)、登録する意思のある世帯の人が家族でよく話し合っており、防災への関心が高いといえそうです。

図27 日頃、家族と災害時の対応法や防災について話し合いをしているか (問15)

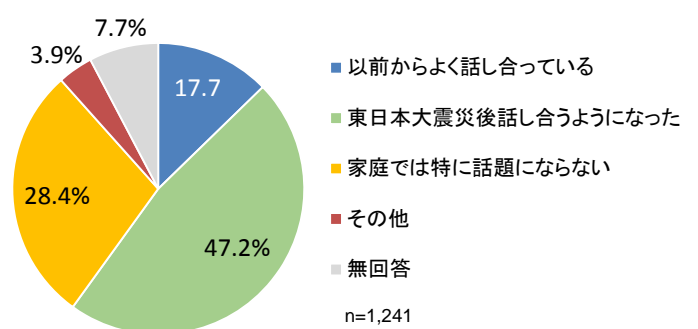
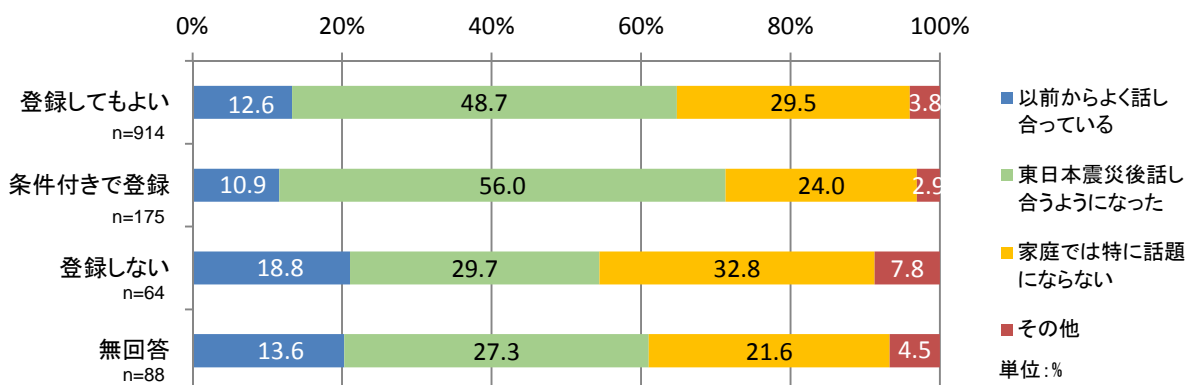


図28 「世帯情報を登録するか」とのクロス集計 (問15)



### 3-5 家庭での災害備蓄の現状

災害によって電気・ガス・水道が停止した時に備えて、どのていど防災備蓄品を家庭で備蓄しているかを尋ねました。(図29)

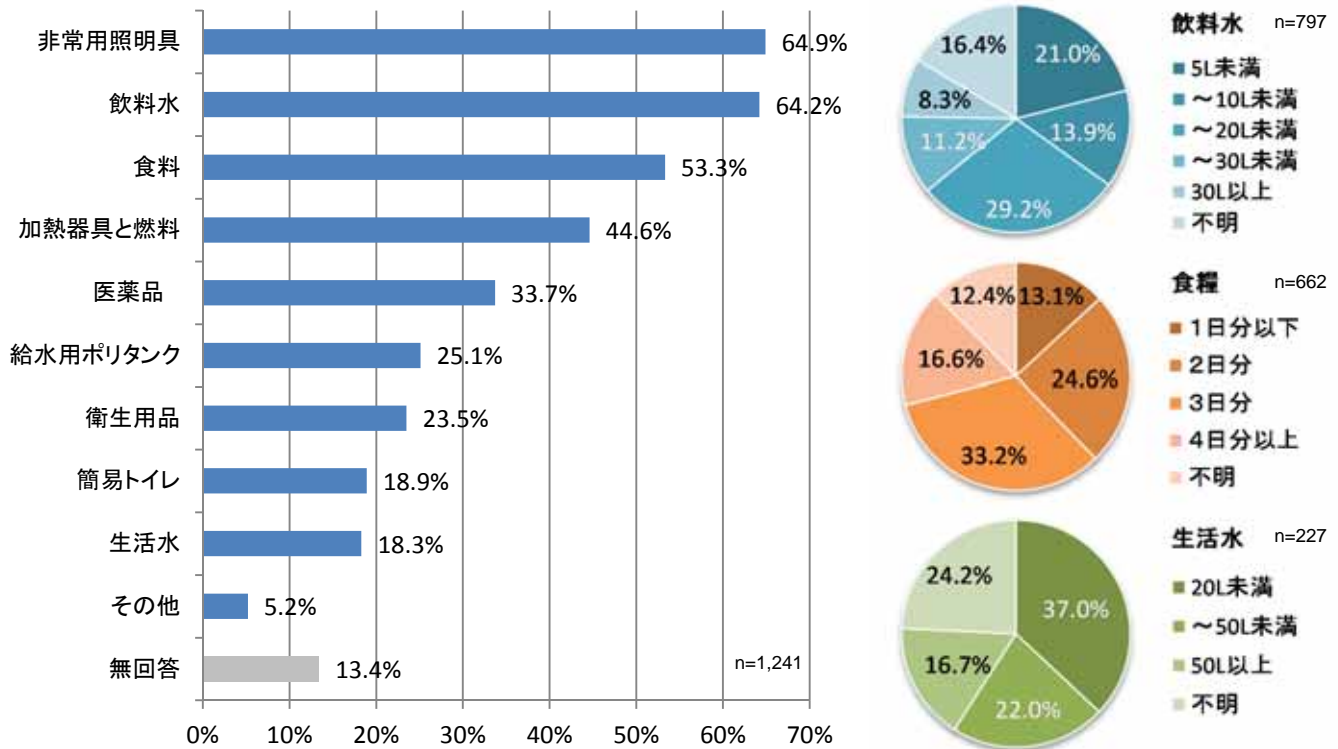
照明器具、飲料水、食糧、加熱器具などが上位になりました。しかし災害時には救援物資が届くまでに数日はかかると言われています。大災害の場合には、さらにかかるとも考えられ、それに対応できる備蓄量が必要だとされています。この観点から見てみると、飲料水や食糧の備蓄量がまだまだ不足していることがわかりました。

しかし、日ごろから1週間分程度の備蓄を各家庭ですておくことはかなり難しいと考えられるため、その具体的な方法を伝えていくとともに、学区としての備蓄をある程度確保する方策を考えていく必要もありそうです。

このほかトイレなどに使う生活水の必要性が、阪神淡路の体験などから強調されていますが、風呂水を捨てずにおく家庭があったほかは、実施世帯も量もかなり不足しているようです。

ほかにも気づきにくい必需品がいろいろあり、防災広報による啓蒙活動が必要だと考えられます。

図29 災害に備えて、家庭で備蓄している品 (問16 複数回答)



### 3-6 学区の防災訓練について

見付学区連協・消防団・みつけ防災会が年に数回行う防災訓練について、住民がどう考えているのか、また参加意識を調べました。(図30・31)

この調査の結果、半数近い人が訓練の実施を知らな

かったことがわかりました。防災訓練の実施予定は、回覧板などで広報していますが、回覧板そのものがきちんと読まれていない可能性が考えられ、「伝わる広報」を課題として取り組んでいく必要があります。

図30 防災訓練に参加したことがあるか (問18 ア)

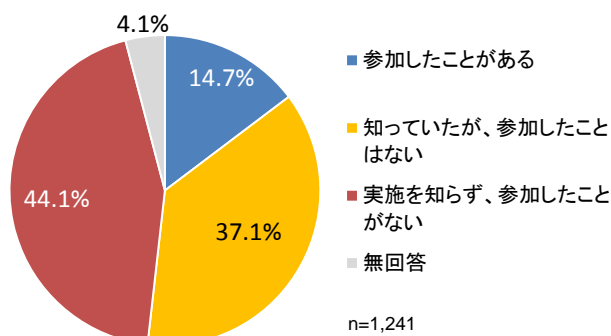
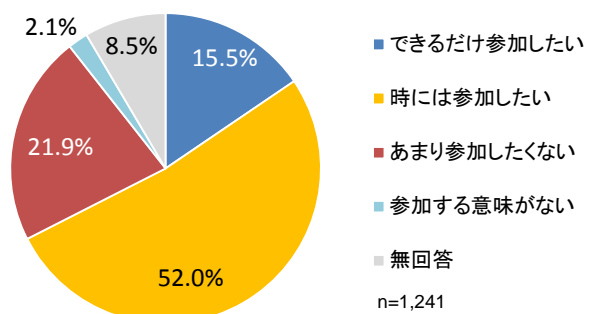


図31 これからの防災訓練に参加するか (問18 イ)



### 3-7 地域自主防災への態度

阪神淡路や東日本大震災の経験を通じて、公の防災対策に頼っていくだけでは、大災害に遭遇したときに生き残っていくことが難しいことが分かってきました。

そこで各家庭、各個人での自助努力とともに、町内や学区という地域コミュニティが協働して地域を守る「共助」のしくみが是非とも必要ですしかしそれは、学区住民の方々の参加意識と具体的な行動がないかぎり絵に描いた餅にすぎません。

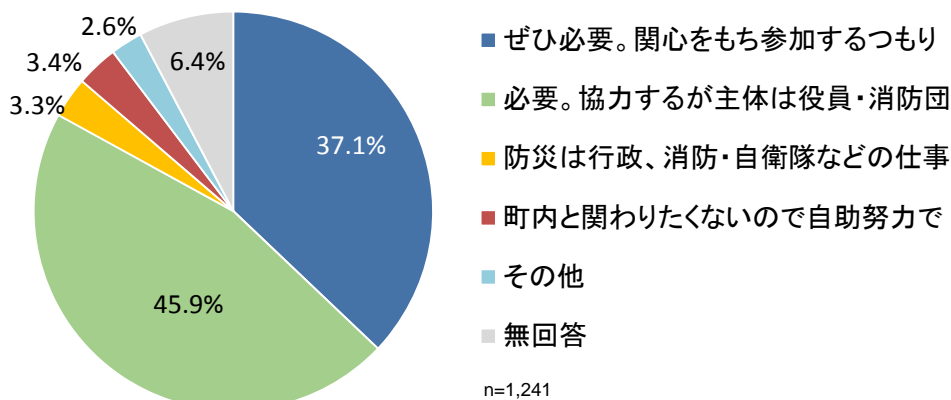
そこで、この調査を締めくくる問19で、「あなたにとって、町内や学区での身近な防災対策は必要だと思いますか」という問いかけをしました。

「身近な防災対策がぜひ必要」との回答が約37%、また防災対策が「必要であり、役員や消防団に協力する」という回答が約46%あったことは、学区住民の防災への関心と意識が高まっていることを示しています。

ただし、この数字はアンケートに回答をしてくださった学区の1/3世帯の答えにすぎず、もともと防災意識が高い人たちが回答したともいえ、残りの2/3の世帯がどのような関心を持っているのかが不明ではあります。

しかし、少なくとも1000世帯を越える学区住民が自主防災に積極的な姿勢を示したことは事実であり、これからの活動を後押ししてくれることを期待したいと思います。

図32 あなたにとって、町内や学区での身近な防災対策は必要だと思うか（問19）



### 3-8 まとめと課題

このアンケート調査では、見付学区住民の防災意識が予想よりも高い結果となりました。反面、防災への備えが必要だとわかっていても、耐震化や家具固定、防災備蓄などの実際行動がまだまだ不足している現状であることもわかりました。

見付学区では、学区連協、みつけ防災会、消防団を中心として、区政協力委員会、各自治会・町内会、連協所属の各種団体などの協力のもと、これからの自主防災対策を整えていかなければなりません。

併せて、隣近所が互いに顔見知りになり、いざという時に助け合えるコミュニティづくりも、防災対策の重要な柱になっていきます。

このアンケートでわかった地域の実状や、アンケートに寄せられたご意見・ご要望などから、これから取り組むべき課題を右に抽出してみました。これらをひとつひとつ解決しながら、災害に強い学区づくりを進めていきたいと考えています。

#### 【 これからの学区防災の課題 】

1. 学区住民に**しっかり届くコミュニケーション**
2. 住民同士がもっと**参加交流できる機会作り**
3. より多くの住民が**参加しやすい防災訓練**
4. 各住民に**基本的な防災知識**を身につけてもらう方策
5. **町内ごとの自主防災組織**づくりに向けたロードマップの作成
6. 高齢者も避難しやすい**避難所の増設**
7. 各家庭での**防災備蓄の増強、家具固定、住宅耐震化の促進策**
8. 学区としての**防災・減災資源の確保**

## 主な自由意見・要望（抜粋・要約）

「問19 その他」および「問20」の自由な意見、要望の中から抜粋し、分析者の責任で要約したものです。  
ほかにも貴重な意見がたくさんありましたが、スペースの都合で割愛させていただきました。

- 簡単かつ小さなことでも、こまめに何らかのイベントを行い、なじみを持ってもらうことが必要。
- まずは自助それから地域・・・かな
- 役員、消防団だけで活動していても対策にならない。日頃から住民全体で関心を持って備えるように組織すべし。
- マンションなどの場合は情報の個別配布よりも掲示板の方が良い。
- 大変な作業ご苦労さま。マンション住まいの方の中にも色々協力したいと思っている人もいると思う。
- 学生が多い地域なので、時間帯によっては帰宅困難者などの問題が考えられる。学校との連携を考慮した対策が必要。
- 名古屋に来て日も浅く、防災知識もないので、防災訓練にはぜひ参加したい。
- 多くの方が参加して知ることが必要。声を掛け合って、日ごろから準備することが大事だと思った。
- 積極的に参加して、自衛策を考えなければと思う。自分の身は自分で守らなければいけないという考えでいる。
- 災害弱者の支援方法を共有したい。ご近所づきあいの深化を図る交流会が必要。
- ここまでの項目を再確認できたので、防災会の調査はよかった。
- ペットが苦手なので、避難所では人とペットを分けてほしい。
- 防災訓練ではAEDなどがいろいろ実際に見られ、参加してとてもよかった。毎回気付かなかったことを教えてもらえる。
- 今回の調査で、自身の防災の備えを見直す機会になった。
- 可能であれば、防災会でWEBサイトを立ち上げて情報の発信と共有化を図っては？
- 残念ながら活動内容がまだよく知られていないと思う。今後周知を図っていただきたい。
- 災害時に地域が助け合って、介護が必要な方を援護することは必要。そのための仕組み作りを進めるべきだと思う。
- 情報発信源や問い合わせ先等の窓口を分かりやすくして欲しい
- 地域での防災対策は必要だが、出来るだけ自助努力をしたい。
- 情報展開が不足していると思う。自治会役員だけでなく、一般世帯を巻き込むようなイベントの実施を望む。
- ぜひ活動を大きくし、地域の方全員で防災に備えていくようにしていただきたい。
- こういうアンケートを時に行い防災意識を喚起するのは良いと思うので今後も行うべき。
- 転勤族だが、協力できる範囲で地域とかかわりを持ちたい。このアンケートで備蓄が足りないことがわかった。
- 転勤族だが、地域と積極的に関わって活動には積極的に参加したい。
- 転勤世帯も地域の一員。より多くの住民が理解できるよう、まずは活動と目的を広く告知することが重要ではないか。
- みつけ防災会が発足したことは有意義。独居高齢者の有無などの情報を地域で共有することも大切。
- 防災訓練には何度か参加したが、阪神、東日本の震災をみると合同の訓練が役に立つか少々疑問。それより各世帯での準備が大切だと思う。
- いつでも起こり得る災害対策の意識を高める為にも、普段から地域の活動に身近に接したいと思う。
- 防災の研修をして、しっかりしたリーダーの養成も必要かと思う。
- 防災に関する情報は回覧などより保存版などにして各戸に配布してほしい。
- 防災訓練にはいつも参加しているが、もっと参加者があればと思う。
- この地域でもどんな災害が発生するか具体的に示して、その対策を講じてもらいたい。
- そもそも誰が組長さんでお宅がどこか知らなかった。掲示板に情報を載せてもらえると気軽に見ることができる。
- アンケート実施だけでも心強く、皆が準備や行動について考えるきっかけになり大事な事だと思う。

- 自然災害に対する完全な対応は難しいと思うが、できる範囲内で助け合う気持ちが大事だと思う。
- 日頃からの横のつながりが重要で、防災会の皆さんからの積極的な働きかけに期待したい。
- 自治会単位での防災モデルプランを策定してほしい。より多くの学区住民を巻き込んでほしい。
- 東山元町5, 6丁目に住む高齢者としてはどの避難所もあまりにも遠すぎる。もっと近い場所をと切に願います。
- アパート一人住まいで地域住民との交流がないため、定期的な防災情報の提供はありがたい。
- こういった活動はぜひ参加したいし、地震の時にどう動けばいいのか、アドバイスがほしい。
- 転入して1年だが「みつけ防災会」は知らなかった。地震対策はしっかりすべき。協力できることには参加していきたい。
- この地域に古くから住んでいるお宅には井戸があることが多いが、何とかこれを整備し、災害時に生活用水などに活用できたらと思う。
- 防災訓練は避難所単位で行い、あらかじめ非難予定者運営組織を作って行うことがよいと思う。
- 在住6年、情報が全く流れてこないのので地域の防災の取り組み方などについて知識ゼロの状況。大変不安に感じていた。情報配信をお願いしたい。
- こどもが小学生の時はお友達とか隣近所と付き合いがあったが、東山元町に転居してきてからは挨拶くらいしかなく、さびしい地域だ。
- みつけ防災会とはどのような存在なのか、特に地方自治体との関係、財政的な根拠がどうなっているのか。基本的情報が不足しているのではないか。
- 土日仕事のことが多いので、防災活動を平日も行ってほしい。
- 独り者でも参加しやすい呼びかけを
- 歩行困難なので、何か具体的な防災準備が必要だと思うが、どうすればよいか分からない。
- 神戸の震災の時には学生の1人暮らしで、地域住民との面識がなく不安だった。防災を考えるには、地域のつながりを大切にする意識づくりを先に。
- 近隣世帯の状況についてもっと知っておくことが大切。災害時、最後は人と人との関係だと思うから。
- 自覚を持って、自助、公助、共助を行えば、多くの人と助け合える。地域力はあなどれない。
- 幼児・乳児をもつ主婦でも参加できる防災訓練を実施してほしい。
- 防災用品等の確保場所と利活用の方策が不明確。また、避難所ではない名大にも多くの人が避難すると思うが、追い出されるのか？
- 無関心や非協力的な住民が多い中、災害時には支援・対策の実施が求められる。防災会運営は大変でご苦労だと思うが、微力ながら協力したい
- 各自治会単位で親密に防災対策を考えなくては。マンション内の交流も少なく、第一歩は近所づきあいから密にしていく必要がある。
- 坂が多い地域なので、皆が防災訓練に参加できるよう身近な場所で実施すべき。
- 子どもが大きくなると地域と疎遠になりがち。もっと地域行事に参加する必要がある。
- 自治会単位での防災モデルプランを策定してほしい。より多くの学区住民を巻き込んでほしい。
- 店舗なので積極的な参加はできないが、出来ることはやっていきたい
- 避難所の見付小学校はとても遠い。近所の高齢者たちも困っている。近くの東山テニスセンターを避難場所にしてほしい。
- 近隣に高齢の方が多いため援助したい
- 防災会に関わらず地域にコミュニティーがなく、近所づきあいもない。住人の顔もわからないのが実態。災害の時これでいいのかと思う。
- 地域もだが、当マンションが心配。住民で防災講習を受けた人がいたら、住民皆が対応できるよう内容を報告してほしい。
- 今後はできるだけ回覧物に目を通し、自分ができるとはしっかりやり協力もしていきたい。

## 平成25年度 地域の防災についてのアンケート調査

地域のみなさんが大地震などの災害で生き延びるために  
たいへん重要な調査です。ぜひご回答ください！

もし東海・東南海・南海が連動する大地震が起きると、関東から中部、近畿、中国、四国、九州までの太平洋沿岸の中核都市がすべて被災し、死者・不明者32万人、被災者1000万人に達するとも言われています。この状況下では、震災後数日以内に見付学区まで救援隊が助けに来ることは、まず期待できません。

そうなると地域の防災会や町内の住民が力を合わせ、倒壊した家屋に閉じ込められた被災者を救出したり、復旧物資を配布し、避難所を住民の手で運営していかなければなりません。

このような場合に備えて地域の実状に合った防災対策を考えていくために、まずは、防災・減災について学区住民のみなさんがどのような考えをお持ちなのかを確認することが必要だと考えました。

本調査は、見付学区連絡協議会と見付学区の防災を考える会が協同して学区内の全世帯にお配りし、世帯の防災対策や意識の現状を知ることが目的として行うものです。

回答には、お名前を書きたくありませんので、  
個人情報が増えることはありません。

回答いただいた内容は統計的に処理し、  
地域防災の基礎資料としてのみ使用しますのでご安心下さい。

見付学区連絡協議会会長

見付学区の防災を考える会(みつけ防災会)会長 山田邦博

記入したアンケート用紙は 平成25年 4月30日までに

- 組長さんの郵便受け
  - マンション管理人・管理会社の郵便受け
  - 見付コミュニティセンターの郵便受け
- に投函してください。

お問い合わせは、町内会長 / 自治会長 (区政協力委員)まで



記入方法： あてはまる答えの番号を で囲むか、( )内に記入してください。

---

**問1** いま私たちの学区では、居住者の実数や世帯構成、災害時に特別な援護を必要とする方の有無などについて、区役所を含めて誰も現状を把握できていません。そこで学区連協とみつけ防災会では、防災対策の基礎となる世帯情報を早急に整えたいと考えています。

これには、救護・復旧に必要な最小限の世帯情報を、学区・町内の自主防災組織に登録していただく必要があります。むろん**厳格な個人情報保護を行うことが条件**です。そこでお尋ねします。このような現状調査が実施されるとしたら、あなたは世帯情報を登録されますか？

1. 家族構成や要援護者の現状について、登録する

2. 条件つきで、登録しても良い ⇒その条件は？ [ ]

3. 登録しない ⇒その理由は？ [ ]

**問2** お住まいの地域の番号に 印をつけてください。

1. 末盛通    2. 松竹町・稲舟通    3. 見附町1    4. 見附町2・3    5. 幸川町    6. 鏡池通  
7. 池園町    8. 四谷通    9. 朝岡町・園山町1    10. 園山町2・唐山町  
11. 東山元町1    12. 東山元町2・3    13. 東山元町4    14. 東山元町5・6    15. 萩岡町

**問3** お住まいの住宅の種類に 印をつけてください。

1. 一戸建て住宅    2. マンション(4階建て以下)    3. マンション(5階建て以上)

**問4** お宅にお住まいの方は合計何人ですか。(同じ敷地内で別棟に住む方も含めます)

1. 独居    2. 2人    3. 3~4人    4. 5人以上 ( )人

**問5** 同居者の中に、75才以上の方はいらっしゃいますか。

1. いる ( )人    2. ふだんはいない    3. いない

**問6** 同居者の中に、ご自分ひとりで出歩くことが困難な方はいらっしゃいますか。

1. いる ( )人    2. ふだんはいない    3. いない

**問7** 同居者の中に、中学校入学前のお子さんはいらっしゃいますか。(あてはまる番号にいくつでも 印)

1. 乳児    2. 未就学の幼児    3. 小学生    4. ふだんはいない    5. いない

**問8** お宅には、世話が必要なペット(犬・猫ほか)がいますか。

1. いる    2. いない



問15 日頃ご家族や同居の方と、災害時の対応方法や防災について話し合いをしていますか。

1. 以前からよく話し合っている
2. 東日本大震災のあと、ときどき話し合うようになった
3. 家庭では特に話題にならない
4. その他 ( )

問16 電気・ガス・水道が停止した時に備えて、ご家庭で備蓄している品にいくつでも 印をつけてください。

1. 食料 ( 日分)
2. 飲料水 ( リットル)
3. 生活水 ( リットル)
4. 簡易トイレ
5. 卓上コンロ・七輪などの加熱器具と燃料
7. 非常用照明具・ロウソク
8. 給水用ポリタンク
9. 医薬品
10. 衛生用品(おむつ・生理用品)
11. その他 ( )

問17 見付小学校、名大教育学部附属学校、見付コミュニティセンターは災害時の避難所に指定されています。次の各質問について、あてはまる施設の番号にいくつでも 印をつけてください。

- (ア) 避難所だと知っていた ( 1. 見付小学校 2. 名大附属学校 3. 見付コミセン)
- (イ) 場所を知っている ( 1. 見付小学校 2. 名大附属学校 3. 見付コミセン)
- (ウ) 自力で歩いて行くことができる ( 1. 見付小学校 2. 名大附属学校 3. 見付コミセン)

問18 学区連協・消防団・みつけ防災会が年に数回行う防災訓練について、あなたはどのようにお考えですか。

- (ア) 参加したことがありますか
1. 参加したことがある
  2. 知っていたが参加したことはない
  3. 実施を知らなかったので参加したことがない
- (イ) 今後、参加しますか
1. できるだけ参加したい
  2. 時には参加したい
  3. あまり参加したくない
  4. 参加する意味がない

問19 あなたにとって、町内や学区での身近な防災対策は必要だと思いますか。

1. 地域での防災対策はぜひ必要。日頃から関心をもち、できることには参加するつもりだ。
2. 地域での防災対策は必要で協力もするが、活動主体は地域の役員や消防団などにまかせたい。
3. 防災は国や市・区などの行政、消防署・自衛隊などの仕事で、地域住民は支援を受ける立場だ。
4. 自分としては町内や隣近所とあまりかかわりたくないなので、できるだけ自助努力で対策を考えたい。
5. その他 ( )

問20 地域の防災や「みつけ防災会」について、ご意見・ご要望があれば自由にお書き下さい。

[ ]

